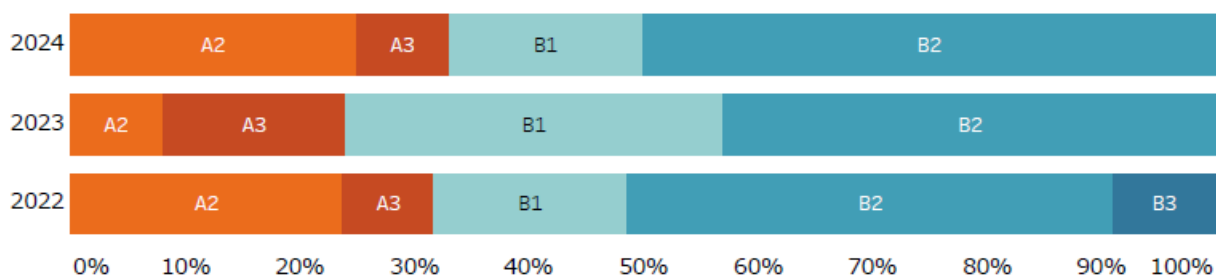


2024年 雙葉 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。大問5題構成は変わらず、計算、一行題、割合、流水算、濃度、情報を整理する問題が出題されていました。昨年とほぼ同じ難度と思います。手間のかかる計算があるため、計算力は欠かせません。また、情報を読み取って整理していく力も問われます。さらに、解答用紙には、式や考え方を書く欄があるため、採点者に読み取ってもらうことを意識して、ていねいに解答する必要があります。



大問1は、例年通り計算、一行題の構成でした。(3)は、16分割して斜線部分を求めても、また、円周率が3.14となるため、 $1 - 0.57 = 0.43$ 倍を利用することもできます。(4)は、つるかめ算を利用する売買算でした。どれも典型的な問題となるため、確実に得点しておきたいです。

大問2は、直方体の箱にブロックをつめる問題でした。差がついた問題と思います。指定された向きで箱いっぱいになるまでつめていきます。縦1260mmと横1470mmの比に着目して求めていきますが、方針が立たず手が出なかった受験生も少なくなかったと思います。ここは後回しにして、他に目を向ける方がよいでしょう。

大問3は、流水算でした。上りと下りの速さの比は7:13となります。(3)は、1回目に出会うまでの時間、2回目に出会うまでに進む距離などを実数で出しても求められますが、計算が大変です。2人が進む様子をグラフに置き換えて求める方がよいでしょう。ここもすべて得点しておきたいです。

大問4は、濃度の問題でした。「濃度」の意味が問われる、雙葉ではあまり見かけない問題でした。最後に操作Bを1回行って、濃度が最も高くなるようにします。考えられる操作の組み合わせをすべて調べるのではなく、食塩の増減に着目して、操作A、B、Cの順番を考えます。操作Cを行うと単純に食塩の量が半分になってしまうため、食塩の量を減らさない操作となるBを先に行っておくこととなります。濃度の意味を正しく理解していたかどうかで差がついたと思います。

大問5は、雙葉で頻出となる、情報を読み取って整理していく問題でした。情報が少し読み取りづらかったかもしれません。「パンを焼く」作業はなく、「パンを並べる」「パンを袋に入れる」作業のみとなります。24個のパンを袋に入れるのに4.8分、24個のパンを並べるのに8分、合計12.8分かかる点に着目することがポイントです。(2)も考え方は同じとなります。

解答用紙には、式や考え方を書く欄があります。採点者を意識した解答を心がける必要があります。あくまでも予想ですが、大問2、大問4、大問5(2)を落としたとしても、およそ7割程度には達することができると思います。